

令和 2 年度

# 運営に関する計画

( 中間まとめ )

大阪市立新東淀中学校

## ○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力しこれからの社会を担うことをめざさせ、心豊かに力強く生き抜く力を育む

# 目 次

学 校 運 営 の 中 期 目 標	.....	1
中 期 目 標 の 達 成 に 向 け た 年 度 目 標	.....	2
最 重 要 目 標	子どもが安心して成長できる 安 全 な 社 会	..... 4
最 重 要 目 標	心豊かに力強く生き抜き未来 を切り拓くための学力・体力 の 向 上	..... 11
そ の 他	.....	20

## 1. 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 生徒の問題行動は減り、一定の落ち着きのもと学習を進めているが、学校生活に馴染めず不登校となっている生徒の割合が高い。小学校時よりの課題を引きずる生徒もいるが、中学校で不登校にならないような生徒の集団育成を推進する。
- 全国学力・学習状況調査や大阪府チャレンジテストの分析より、各学年とも国語では「書く」分野、数学では「関数」分野で課題があるという結果がある。そのような結果とともに、子どもたちは、基礎学力の定着不足から学習から逃避し、問題行動に走る可能性を持つ状況に変わりはない。そのため授業で生徒がわかると感じる授業を創造し基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習習慣を身につけさせ、自ら学ぶ姿勢を育成する。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、男子も女子も、毎授業で「ランニング、ラジオ体操、トレーニング、ストレッチ」などを取り入れるなどの授業工夫の結果、大阪市平均や全国平均を上回る結果がみられる項目もあり、徐々にではあるが成果が表れてきている。しかしながら、特に「持久走」では全国平均を大きく下回る結果になっており、今後の大きな課題であると考えている。  
課題解決に向けては、引き続き、授業づくりの工夫を推進するとともに、部活動の振興と充実に加えて、新たに生徒が関心を持って自ら取り組みたくなるようなトレーニング機器や施設等の整備を行なって、生徒が運動やスポーツに親しむ環境や機会を確保する取組を進め、生徒の体力・運動能力の向上を図る。
- 本校は、学校が校区外にあるというハンディを抱えるが、目指す子ども像として「地域を愛し、地域に頼られる生徒」をあげている。各地域での行事や地域防災訓練等に、各生徒が地域の一人であるという自覚を持ち参加し、より一層「学校・家庭・地域」の連携を深める取り組みを推進する。

### 中期目標

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和2年度の不登校の在籍比率を大阪市の目標3.7%より低くする。
- 令和2年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。
- 令和2年度の校内調査における「学級・学年でいじめがおきない雰囲気がある。」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和2年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和2年度の全国学力・学習状況調査における「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない。」と答える生徒の割合を40%以下にする。
- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を「男子45、女子50」以上にする。

## 【その他】

- 2月の小学6年生アンケートで、「**小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？**」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を**90%**以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を**95%**以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 令和2年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を83%以上にする。
- 令和2年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和2年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上減少させる。
- 令和2年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上増加させる。
- 令和2年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、新たな課題となった「長座体前屈」や「上体起こし」の記録を、前年度より向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 令和2年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を**75%**以上にする。
- 令和2年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を**35%**未満にする。
- 令和2年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を**85%**以上にする。

### 【その他】

- 2月の小学6年生アンケートで、「**小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？**」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を**90%**以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、「**先生は、教え方を工夫している**」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を**80%**以上にする。

大阪市立新東淀中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>全市共通目標（小・中学校）（再掲）</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	
<p>学校の年度目標（再掲）</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>○令和2年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>[生活指導]</p> <p>社会生活を送るうえで普遍的な規範の一つである「時間を守る」「言葉づかいをていねいにする」の2項目の指導を徹底し、集団生活をよりよく過ごす為にはルールを守ることが必要という自覚を持たせ、自律心を育成する。</p> <p>集団生活のルール（校則・心得）や生徒手帳にある生徒会申し合わせ事項等を年度当初に確認し、校内外で安全で安心して生活できる集団作りに努める。</p> <p>指導が繰り返し続く生徒には、本人の背景や状況を把握し、組織的に対応することで状況の改善を図る。</p> <p>不登校の生徒に対して、担任の家庭訪問だけに頼るのではなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等を活用し、校内の対策委員会で対応を検討する。単に「登校させる」ことだけを問題解決の目標にするのではなく、将来の社会的自立に向けた視点で、柔軟で弾力のある関わりと状況に応じた多様な支援に努める。</p> <p>本年度より「大阪市こどもサポートネット」について、学校を挙げて連携・活用に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。</p> <p>学期初めの生徒集会・学年集会等で、集団の状況を踏まえ目標を確認する。また、トラブルが生じた時に、学級・学年全体指導を通してルールの確認を行う。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
[防災・減災教育の推進]		
取組内容	東淀川区役所、東淀川消防署、東淀川社会福祉協議会、菅原・新庄・下新庄の地域防災リーダーと連携しての「防災研修」、学校全体での「避難訓練」、各学年の状況に応じた「防災学習」を実施し、防災・減災について考えさせるなかで、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と、支援者となる視点から安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。	B
指標	防災に関する授業を年間2時間以上実施する。	
[安全教育の推進]		
取組内容	大阪府警本部、東淀川警察署と連携し、「交通安全教室」や「非行防止防犯教室」を開催し、交通の危険について理解を深め、安全な歩行や自転車の利用を指導するとともに、ラインやSNSによるトラブル・インターネット上のいじめや、夜間外出での犯罪被害の防止に向けた取り組みを推進し、学校生活を含め生活全般において子どもの規範意識の醸成を図る。 また、薬物乱用防止教育講師による「薬物乱用防止教室」を開催し、生徒たちが薬物乱用の実態や心身への影響、依存症、疾病との関連や社会への影響などについて考え、正しく理解する機会を設ける。	D
指標	校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度以上とする。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】		
[道徳教育の推進]		
取組内容	昨年度から始まった「特別の教科道徳」を年間の取り組みを通して、生命の尊厳などの道徳的価値を見出させる。また普段の学校生活のみならず、外部講師による講話、文化発表会・芸術鑑賞など学校の教育活動全体を通じて、情操教育の推進とルールを守る大切さを学ばせる。	B
指標	道徳の教科書を使った学習方法を教職員全体で共有できるように推進すると共に、生徒が学習内容を整理しやすいようにまとめる。また、道徳アンケートを行い、授業の現状と生徒の理解度を把握し、今後の教育活動の推進に活かす。	
[キャリア教育の充実]		
取組内容	社会的・職業的自立に向け、自他の理解能力等の諸能力や生徒の勤労観・職業観を育てるため、企業や団体の協力による職業講話や職場体験学習などを実施することよりキャリア教育を推進する。	B
指標	校内アンケートにおける「先生と将来の進路や生き方について話ができる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。	
[人権を尊重する教育の推進]		
取組内容	学校生活において、生徒同士や生徒と教師間のコミュニケーションを大切にした教育活動を行う。また、仲間意識を育むことで心穏やかに学校生活を過ごせるようにする。	B
指標	校内アンケートにおける「いじめがおきない学校づくりに積極的に取り組んでいる。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	<p>[インクルーシブ教育システムの充実と推進]</p> <p>変わりゆく特別支援教育を理解し、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行う。インクルーシブ教育システム構築のための基本的な環境を整える。</p>	B
指標	特別支援教育にかかわる生徒一人一人の教育的ニーズに対して、専門家による指導助言を年1回以上受け、適切な指導及び支援を行う。	
取組内容	<p>[芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出]</p> <p>文化芸術は、他者に共感する心を通じて、人と人々が相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、人間が協働し、共生する社会の基盤となることから、社会的財産であると言える。そこで「芸術鑑賞」や「学校行事・地域行事での吹奏楽部の演奏・演技」を通じて、生徒それぞれが、自らが文化芸術の担い手であることを認識する機会を創設する。</p>	B
指標	「芸術鑑賞」や「文化発表会」の事後アンケートでの満足度を80%以上とする。	
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】		
取組内容	<p>[保護者や地域住民に開かれた学校運営]</p> <p>年3回実施する土曜授業をすべて保護者や地域住民に公開するとともに、学校だよりや学校HPを通じ情報発信を行い開かれた学校にする。 また、地域行事へ吹奏楽部を中心に生徒の積極的な参加を推進し、地域との連携を深める。</p>	B
指標	学校だよりを月1回発行し、学校HPを年200回以上更新する。 本校アンケートで「学校が開かれている」と肯定的に回答した保護者の割合を前年度以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【生活指導】

「時間を守る」指導については、ほとんどの生徒が25分の予鈴までに教室へ入れるようになっている。「言葉使いをていねいにする」指導については年度当初の集会や日々の活動、生徒との関わりの中で実践しているが、これからも意識し継続して取り組んでいく必要がある。様々な問題行動に対しても、学年生指を中心にきめ細かく個別に指導を行っているが、今後も粘り強く指導し、理解をさせていく必要がある。

不登校の生徒に対して、学校（教員）のみで対応するだけではなく、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーや子育て支援室など外部機関と連携し、将来の社会的自立に向けて、柔軟で弾力的な関わりと状況に応じた多様な支援を行っている。本年度から開始した「大阪市こどもサポートネット」についても、学校を挙げて連携・活用に取り組んでいる。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【防災・減災教育の推進】

6月に消防署と連携し、火災を想定した避難訓練を実施した。訓練のなかでの消防署の職員による火災発生時の避難の仕方についての講話などを通して自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と防災に対する意識を持たせることができた。11月には、1年生で地域の防災リーダー等と連携した防災学習を実施する予定である。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【安全教育の推進】

新型コロナウイルス感染症の関係で、東淀川警察と連携できない状況である。非行防止については、教室で各担任より、終業式で生徒指導主事より全体への指導を行った。薬物乱用防止教育は、3学期に実施する予定にしている。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 【道徳教育の推進】

大阪市立中学校教育研究会の道徳部から出ている、道徳の指導案を各学年に3冊配布し、大阪市独自の気づき1気づき2の方法での授業ができる環境を整備している。また、今年度の初めに、評価方法を学校全体で統一したことで、成績をつける作業が円滑に進んでいる。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 【キャリア教育の充実】

職場体験学習を11月に実施する。その事前準備として、2学期に入って「職場体験学習ノート」や「自己アピールカード」や「IDカード」を作成する取り組みを推進し、勤労観や職業観を学ぶための準備をすすめている。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

**【施策2 道徳心・社会性の育成】 [人権を尊重する教育の推進]**

人権教育委員会を通して道徳授業の進め方を議論し、各学年で実施している。各学年の進捗状況を定期的に報告する機会をつくり、集約に努めたい。

**【施策2 道徳心・社会性の育成】 [インクルーシブ教育システムの充実と推進]**

特別支援教育モデル研究実施校に指定され、2学期は1回の巡回訪問の際に指導助言を受けた。また、「行動面に課題のある生徒への支援」という題名で研修会をすることができた。さらに理学療法士にも巡回訪問していただき、身体の機能面について助言を受けることができた。

**【施策2 道徳心・社会性の育成】 [芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出]**

1学期については、芸術・文化系のイベントはすべて中止され、生徒にとって芸術・文化に触れる機会が激減した。2学期に入り、文化発表会・芸術鑑賞が実施されることで、人数制限等若干の制約を受けるが、文化芸術に触れ合う機会を創出することができることとなった。

**【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 [保護者や地域住民に開かれた学校運営]**

学校だよりの定期的な発行（月1回）と学校HPの日常定期に更新（10月14日現在：243回更新、昨年10月18日：174回）を行った。また、学校HPへのアクセス数は（10月14日現在：43966件、昨年10月18日：34068件）となっており、変災等の対応も含めて、学校に対する保護者の関心度が更に高まってきている。さらに、本年度はコロナ禍による保護者等の来校規制の関係から、学校や生徒の様子を知る機会をHPより得ていることで、HPの利用頻度があがってきている。

## 年 度 末 へ の 改 善 点

### 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【生活指導】

年度後半も、引き続き「時間を守る」指導を徹底していき、朝の8時25分の予鈴で教室に入っておくという状況を継続させたい。一部、遅刻が常態化している生徒もいるので、個別の指導も合わせて行っていく。

また、「言葉遣い」についても丁寧にするよう、生徒同士や教職員が生徒と関わる場合などを通して、指導を継続したい。

### 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【防災・減災教育の推進】

子どもたちが火災や地震などの災害を他人事ではなく身近なものであると意識し、みずから防災・減災について考え主体的に行動できるよう指導していく必要がある。

### 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 【安全教育の推進】

情報モラル教育を通して、SNSの使い方等は学習しているが、身近なものという意識が低く感じる。今後もスマホ、SNSの使い方については継続して指導を行う必要がある。自分にも起こりえることであると認識させる。

### 【施策2 道徳心・社会性の育成】 【道徳教育の推進】

今年度初めて行った、統一した道徳の評価について、振り返りと反省を行い、改善点があれば今後活かしていく。また、来年度から教科書が変わるので、それに対応した教材研究を進める必要がある。

### 【施策2 道徳心・社会性の育成】 【キャリア教育の充実】

職場体験学習について、2年生の先生方を中心にコロナ禍への対応に苦慮しながらも実施へと進めていただいている。今年度受入不可だった事業所について、来年度以降は再びご協力いただけるようお願いする必要がある。卒業後の進路選択が多様化しており、高校等でもICT化などの教育改革が進んでいる。『進路の手引き』の改訂をすすめ、進路指導委員会を活性化させ、教員・保護者・生徒に情報共有できるように工夫を重ねていきたい。

### 【施策2 道徳心・社会性の育成】 【人権を尊重する教育の推進】

登校指導や休み時間などでの教師生徒間のコミュニケーションを大切にすることで安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。より良い学校づくりを行うために、自他の人権を理解し尊重できる学習を進めたい。

## 年 度 末 へ の 改 善 点

### 【施策2 道徳心・社会性の育成】 [インクルーシブ教育システムの充実と推進]

特別支援教育モデル研究実施校の巡回訪問を3学期も続けていき、生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた指導・支援ができるように研究を進めていく。

### 【施策2 道徳心・社会性の育成】 [芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出]

新型コロナウイルス対応により、前期のほとんどの機会が失われたことから、本年度後半、万全の対策を行ったうえで、可能な限り芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ行事を実施していく。

### 【施策3 地域に関われた学校づくりと生涯学習の支援】 [保護者や地域住民に関われた学校運営]

HPの更新回数については、昨年度よりも増加することができた。しかし、コロナ禍におけるHPの役割は重要で、更新回数のみならず、今後もできる限りの生徒の様子や本校の状況を保護者・地域に発信できるよう工夫していく。また変災時には、生徒の様子を保護者にお知らせする大事なツールとなるので、的確に必要な情報を発信していけるよう心掛ける。

大阪市立新東淀中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）（再掲）</b></p> <p>○令和2年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○令和2年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上減少させる。</p> <p>○令和2年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上増加させる。</p> <p>○令和2年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、「長座体前屈」や「上体起こし」の記録を、前年度より向上させる。</p> <p><b>学校園の年度目標（再掲）</b></p> <p>○令和2年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を77%以上にする。</p> <p>○令和2年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を35%未満にする。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】</p> <p>[国語]</p> <p>取組内容 国語に対する関心・意欲を高めるため、ICTや視聴覚教材を活用する。また、授業での漢字の練習を通じて、基礎学力の定着・向上を図る。また理解度に応じてワークブックやプリントなどを用いて読解力を高めるとともに、グループワークを積極的にさせることで主体的対話的な学習に取り組ませる。</p> <p>指標 週1回以上の授業で漢字の学習を行ない、単元ごとにICTを活用した授業を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		B
取組内容	[社会] 社会的事象を多角的な視点から主体的に思考する力や豊かな表現力を身に付けさせる。	
指標	定期テスト等においては社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題し、解答できる力を身に付けさせ、正答率を55%以上にする。	B
取組内容	[数学] 基礎・基本を定着させるために、毎回の授業で復習問題を行う。また、テスト期間を中心に、補習や質問教室を行い、自主的な学習態度を育てる。	
指標	ワークやプリントを活用し、演習問題を充実させる。また、年間4回以上補習・質問教室を実施する。ノート・問題集の提出を80%以上にする。	B
取組内容	[理科] 科学に対する興味・関心を深めるために実験・観察を学期に3回以上行い基礎学力の充実をはかり、科学的に物事をとらえ、表現できる力を育てる。	
指標	実験プリントの完成、提出を90%以上にし、興味・関心をもって取り組めた生徒の割合を75%以上にすることを目標とする。	B
取組内容	[音楽] 音楽の基礎知識や演奏技術の実力を向上させることで、音楽への興味・関心をひきたて、音楽を愛好する心や豊かな感性を育み、豊かな表現力を育てる。	
指標	各学年とも1・2学期に1回ずつ歌唱テストを、アルト笛は到達度テストを学期に2回以上行う。音楽の授業が楽しいと答える生徒を70%以上にする。	B
取組内容	[美術] 授業開始後5分間でスケッチを行い、画力の向上を目指す。また、アイデアやひらめきなどの感性を豊かにし、個性を生かし育てる。	
指標	美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、一人でも多くの生徒が授業を通して美術の楽しさを学べる割合を85%にする。	B
取組内容	[技術家庭] 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会の変化に対応しながら、実践的・体験的な学習活動を通して指導を行っていく。	
指標	反復基礎練習、作業確認が多く実施できる実習計画をたて、85%の課題達成や技能習得を目標とする。また安全に実習が行えるよう機器・工具類の整備を定期的に行う。教科内での評価や研修内容などを共有し指導に生かす。	B
取組内容	[英語] 「基礎学力の定着・伸長」をはかり、4技能を統合的に運用できるよう指導する。また、「他国・他民族の文化や習慣」を学ぶことで、「母国の文化や習慣」について、より深く理解させる。さらに「両者の違いを認め、理解しあう心」を育てる。加えて、協同学習を通し、誰とでも協力し目標達成に向け努力できる心を育てる。	
指標	自主教材やデジタル教材、ICT機器等の教具を積極的に活用する。協同学習などさまざまな学習形態での授業を行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		B
取組内容	[学力向上を図るための学習支援の充実] 児童一人ひとりの基礎学力の定着に向け、学びサポーターを年279時間配置するとともに、教育委員会より配信されている学習教材のデータを活用して生徒への学習支援の充実を図る。	
指標	校内アンケートにおける「授業内容が分かる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。	
取組内容		B
取組内容	[図書室を活用した言語力の定着と向上] 生徒が本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発に行ってみたいと思えるような図書館、生徒が主体的に資料や情報を収集・選択できる図書館を目指して、図書館の室内環境・機器を整備するとともに、図書室だよりの発行などの広報活動を積極的に行って利用生徒数の増加を図る。	
指標	図書館の利用生徒数を前年の10%増を目標とする。	
取組内容		B
取組内容	[放課後等を活用した自主学習支援] 学校元気アップ地域本部事業と連携して、「放課後自主学習室の開放」「長期休業中自主学習室の開放」等を行う。また、小中連携の一環として、「親子漢字検定」「親子英語検定」を実施して、生徒の自主学習を支援する。	
指標	土曜日自主学習会の実施、放課後及び長期休業日の自主学習室開放を年150日以上、参加生徒数は延べ1,500人以上を目指す。また、「親子漢字検定」「親子英語検定」を年1回実施する。	
取組内容②【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】		進捗状況
取組内容		B
取組内容	[生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実] 体力・運動能力向上のため、グループ活動を充実し、基礎的な知識及び技能の習得をはかる。目標設定を具体的に用紙に記入することで、生徒自身が各種目の記録から、自らの課題を解決していけるよう学習を推進する。また、集団行動を徹底し、規範意識を高め、健康の保持・増進と体力の向上に必要な思考力・判断力・表現力の育成を図る。さらに、タブレット等のICTを活用し、授業展開の幅を広げる。生徒が運動やスポーツに楽しく参加できる体育的行事として、「水泳大会」や「体育大会」、「マラソン大会」や「球技大会」などの行事を推進する。また、生徒自らが積極的に運動やスポーツに取組みたくなるよう「トレーニングルーム」の施設を活用し、運動やスポーツに取組む機会を拡大することにより生徒の体力・運動能力の向上を図る。	
指標	①体育授業が「楽しい」と答える生徒を80%以上にする。 ②実技において「技能習得ができた、わかった」と答える生徒を80%以上にする。 ③年間の体育的行事を3回以上実施し、運動に親しむ機会を作る。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
[健康に関する現代的課題への対応]		B
取組内容	スマートフォンの普及に伴い、夜遅くまでゲームやSNSなどを行っている生徒が増えている。その結果、睡眠時間が短くなるだけでなく、起床が遅くなり朝食を抜く生徒も増える傾向にある。この課題に対して、今年度も引き続き保健委員による健康・保健調査を週2回継続的に実施していく。また月1回のほけんだよりの発行や、保健委員会の活動を活発化させることにより、健康への意識、関心を高める。	
指標	月1回保健だよりを発行する。週2回の保健調査を年間を通して実施する。保健委員の取組みに対する理解度を計る事後アンケートで肯定的に回答する生徒の割合を8割以上とする。	B
[食育の推進]		
取組内容	日々の昼食指導に工夫をするとともに食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、「食に関する取組み」を実施する。各教科と連携し「食」の重要性を理解し、食について関心を持つよう食育を推進する。	B
指標	月1回「食育だより」を発行する。年1回以上「食育」に関する授業や生徒が自主的に取り組むことのできるようなを実施を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組み】【国語】</b></p> <p>漢字の定着のために、全学年で週に1回以上の漢字テストを行っている。漢字の定着の確認に加えて、書くことへの苦手意識をなくすために、初読の感想や作文を書かせている。ICTや視覚的資料を活用し、学習への意欲向上に取り組んでいる。さらに、図書館を利用して調べ学習を行い、図書への興味付けを行うとともに、言語力の定着を図っている。</p>	
<p><b>【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組み】【社会】</b></p> <p>1年生では、『地理の分野において、電子教材を駆使して統計資料や観点別資料を提示することで多角的な観点から事象を捉えられるよう取り組んでいる。表現力を高める取組みは引き続き見取っていきたい。』</p> <p>2年生では、『チャレンジテスト出題範囲を習得させるために、パワーポイントによる資料提示を行い、授業を速いテンポで進めたが、可能な限り対話的な学びを重視してきた。定期テストでの社会的事象への思考・判断・表現に関する問題の正答率は1学期末テストで41%、2学期中間テストで56.7%であった。』</p> <p>3年生では『歴史的分野・公民的分野ともに様々な資料を用いて読み取る力を育むことに注力した。「持続可能な社会」を生きていく中での思考・判断・表現力の育成については、引き続き力を入れて取り組みたい。』</p>	

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【数学】**

毎回の授業で計算問題をすることはできている。その結果テストでの計算問題の正答率はあがっている。テスト期間に質問教室を開くことができるときとそうでないときがある。昨年に引き続き、視覚的な授業を行うことで、生徒の興味関心を引くことができ、主体的に取り組む姿勢が見られた。また、生徒同士で教えあうことも積極的に行うことができている。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【理科】**

感染症対策の観点から、1学期は各学年とも理科室の使用を控えていたが、2学期以降は多くの実験を行うことができている。その際に課される実験プリントの提出率・完成率も概ね目標を達成できており、生徒は興味・関心を持って実験に取り組むことができている。また、実験の代替として視聴覚教材・実験動画を利用した学習も積極的に取り入れることで、科学的な思考力を育てる機会を確保できている。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【音楽】**

アルト笛の練習を1学期全く行わなかったが、他校でも指導が始まっていることもあり、2学期より開始した。換気をしながら、半数の人数で分けて練習をするため、進度は遅くなるが毎時間行っている。また、苦手な生徒も多く、練習では机間巡視を行い、個々に応じたアドバイスやテストを実施した。歌唱も同じく1学期はハミング唱だけ行い、2学期よりマスクをしたまま行った。2学期は対策を考えて全学年で歌唱テストを予定している。また、今後は箏演奏や創作活動も取り入れていく。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【美術】**

今年度、4月から約2か月間、制作ができない日々が続いた。結果的に1年生は展示の最大の目標である文化発表会に間に合うよう制作ができた。しかし、2年生の模写では、色塗り（色鉛筆）に時間がかかり製作途中の作品も多く展示するようになった。こだわって丁寧に色塗りする生徒も多く、指導の中でスピードも大事。でも雑にならない。といった制作にかかる時間がわかりづらい状況になってしまった。3年生は自画像を展示し長欠、不登校以外の生徒は仕上げる事ができた。ほかにも修学旅行Tシャツの展示など学校行事と絡めた授業が多い中、休校期間があったにもかかわらず、例年と同じペースで授業が展開できている。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【技術家庭】**

実習においては、感染予防に配慮しながら、効率の良い作業を行うために、教材の工夫や、実習室や用具の整理・点検・準備を丁寧にしている。また、基礎的な知識や技能の定着のために、反復練習や基礎確認のできるプリントを活用している。

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【英語】**

自主教材やデジタル教科書、ICT機器等の教具やC-NETを積極的に活用し、効率的かつ効果的に授業を行っている。ソーシャルディスタンスに配慮しながらペアワーク、グループワークの活動やプレゼンテーション等の発表の機会を与え、コミュニケーション能力の育成に努めている。また、自分の意見や考えを英文でまとめる等、書かせる活動やリスニング活動を定期的に取り入れることで、4技能をバランスよく習得できるよう工夫を重ねている。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【学力向上を図るための学習支援の充実】**

生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向け、校長経営戦略予算を活用して学びサポーターについては、3名の方に週5回計21時間の配置をしている。また、10月からはあらたに3名の方を週2回計12時間の配置をしている。

校長経営戦略支援予算を活用して、教科書ガイドの問題集や受験対策として参考書を自主学習室に備えて、元気アップの方々の協力も得ながら、生徒が自主的に活用できる環境を整備した。また、環境をより充実したものにするため新しく利用しやすい机や本棚を購入した。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【図書室を活用した言語力の定着と向上】**

昼休み・放課後を使って週に8回図書室を開館している。通常であれば平均して50人近くの生徒が訪れるが、今年はコロナウイルス感染予防で密を避けるために、入館人数を制限したり、貸し出し冊数を増やしたりと貸し出し期限を延ばすことで来館数を減らす取り組みをした。例年実施していた読み聞かせ会も、本年度は中止となった。来館者数は例年よりも少ないものの、貸出冊数は例年通りである。また、生徒が作ったおすすめの本のPOPを掲示したり、曆にあった本を並べるコーナーを作ることで、生徒がさまざまな本に触れる機会を増やした。

**【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【放課後等を活用した自主学習支援】**

学校元気アップ事業の活用により「土曜自主学習会」や「放課後自主学習室の開放」を9月までに合わせて68回行い、延べ377名の生徒の参加があった。本年度は感染症対策の観点から学習会の開催を控えていたが、6月からの学校再開に伴い学習会も再開した。そんな中、参加人数が定着してきていることは、自主学習習慣の意識が醸成されつつあると感じている。また、8月に実施した「漢字検定」には44名、10月に実施した「英語検定」には72名（両検定とも本校生徒のみ）の参加があった。両検定への参加者は年々増加し、定着してきている。

**【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実】**

保健体育の授業で、グループによる活動を充実させ、自身の課題克服のために種目ごとに学習カードを準備し、目標を設定させ、自らの力で達成していく授業を展開している。

目標としていた、体育的行事を年間三回入れるということだったが、今年度はコロナの影響により、水泳大会を中止した。しかし、体育大会は日程を変更し、時間を短縮し、感染予防することで何とか実施することができ、生徒を笑顔にすることができた。また、部活動でトレーニングルームの活用も進み、各部活動主体ではあるが、体力向上につながる取り組みが行われている。

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

**【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【健康に関する現代的課題への対応】**

毎月「保健だより」を発行しその時期、その時代に合わせた健康に関する記事載せることにより、健康に関する意識を高め健康維持の為に自分でできることを学ぶきっかけとしている。また各学級において保健委員が週2回、定期的に健康調査を実施し睡眠時間や朝食の喫食状態を調べることにより、正しい食事や睡眠時間の大切さを意識づけている。また、今年度は感染予防対策を重点的に行い、保健委員が中心になって手洗い・消毒・換気の意識づけを継続して実施している。

**【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【食育の推進】**

今年度は例年と違った年間行事予定となり、1学期には食育の取り組みは実施できなかったため、今後、各学年で計画・実施していく。

また、今年度から毎日、その日の給食メニューについての豆知識を廊下に掲示することにより、食への興味・関心を高めるきっかけとしている。

年度末への改善点

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔国語〕

漢字小テストの実施と、間違えたところの復習を繰り返させて定着を図っている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔社会〕

テストにおいて観点別の採点を行い、自分の得点の分析が行えるようにしている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔数学〕

生徒の興味・関心を引くことができる授業づくり、教えあう環境づくりに力を注ぎたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔理科〕

今後も実験数を十分に確保し、理科に対して生徒が興味・関心を持てる授業を実施していきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔音楽〕

1学期は休校後、授業で歌唱やアルト笛練習を行っていなかったため、歌や笛の実技の向上は難しかったが、手拍子を使ったリズム練習の曲を取り入れて楽しくリズムを打つことができた。今後も対策や工夫をして実技を取り入れていきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔美術〕

制作進度に遅れが見られる生徒に関して、放課後等の事後指導の徹底をはかり、適切な配慮による事前指導も行っていきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔技術家庭〕

各学年の単元の実習課題に応じて、休校もあったが、できるだけ多くの実習時間を確保し、より良い技術を身につけられるように取り組んでいきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔英語〕

単語や熟語、基本文法等をさらに定着させるため、授業での取り組みに加えて、家庭学習用の課題を継続して与えていく。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】〔学力向上を図るための学習支援の充実〕

自主学習室の利用数は安定はしているが、未だ利用していない生徒もたくさんいる。この現状を踏まえ、今後は開館情報などを生徒に周知できるよう工夫していく。また、未利用の原因が感染症への不安等などの理由の場合は、感染症対策を充実させ、不安解消できるようにする。

## 次年度への改善点

### 【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【図書室を活用した言語力の定着と向上】

前年度目標にしていた読み聞かせボランティアの実施は本年度感染予防の観点から見送った。状況を見て、来年度以降実施できる状況にあるか東淀川図書館とも相談の上、進めていきたい。書棚の配列の工夫や貸出数が増えるような取り組みは今後も続けていく。

### 【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】【放課後等を活用した自主学習支援】

自主学習教室の開館案内や土曜自主学習会の実施案内などを生徒全体になお一層周知し、自主学習室の利用を自らが率先して利用できるよう取り組む。また、感染症対策の観点から、安全で安心して利用できるようなお一層対応していく。

### 【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実】

感染予防の観点を入れながら、十分な体力を身に付けられる授業を展開する。行事の計画をしっかりと練りながら、感染予防を徹底したうえで、実施できる準備を行う。主体的・対話的で深い学びを実践するためにはどのようにしていくのかを保健体育科で教科会を継続して実施していく。

### 【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【健康に関する現代的課題への対応】

ほけんだよりの発行、保健委員による健康調査は今後も引き続き実施していく。また今後も保健委員からの報告やポスター等でコロナやインフルエンザの感染予防への意識を高めていく。手洗いやアルコール消毒など、感染拡大を予防する対策を今後も学校全体で取り組んでいく。

### 【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】【食育の推進】

「食育だより」の発行や「今日の給食メニューの豆知識」の掲示などを通して、今後も食に関する意識を高めていく。また、朝学活での保健委員の健康調査の中で朝食喫食の有無を入れることで朝食を食べる習慣を意識つけていく。それに加えて、各学年で食育の取り組みを年度末までに計画・実施する。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
<p><b>【その他】（再掲）</b></p> <p>○2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>[小中一貫教育の充実]</p> <p>取組内容 中学校進学への不安軽減や、小・中学校の教職員の協力した教育課程による学力向上をめざし、本校の「小中連携アクションプラン」に基づく小中合同研修会の開催・公開授業・出前授業などの小中一貫した取組を推進する。</p> <p>指標 2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>[若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実]</p> <p>取組内容 メンターの活用を通して組織的な若手教員の育成に取り組みについて教員相互の学び合いにつながる校内ミーティングを各学期に2回以上実施する。また、全教員が年間1回以上の授業研究・相互参観を伴う校内研修を実施するとともにワークショップ型の研究協議をはじめ、教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。</p> <p>指標 研究協議後のアンケートで、「若手教員の指導力や授業力向上への意識が、メンター研修や校内授業研修週間を通して高まった」と肯定的な回答の割合を87%以上とする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 【小中一貫教育の充実】</b></p> <p>年度当初に授業参観・情報交換会をおこなうことができたが、全体会・分科会をおこなうことができていない。分科会のための教科ごとの担当確認は完了している。年間の計画にもとづいて、部活動体験など、できるだけ多くの取り組みをおこなっていく方針である。今後の動きとして、コーディネーターで小学校を訪問し、小学校6年生に向けて中学校について説明を行う予定である。例年通りとはいかない部分が多いが、少しでも中学校生活の不安を解消できるように努めている。</p>
<p><b>【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 【若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実】</b></p> <p>1学期と2学期に1度ずつメンター研修を実施した。1学期の研修では、学級経営の仕方や授業づくりを中心にそれぞれの悩みや意見交流を行うことで若手教員の不安を軽減することができた。2学期のメンター研修では、OJTの先生にも入っていただき、「1学期の反省点と2学期に向けて」というテーマで意見交流を行い、若手教員の意識を向上することができた。</p> <p>校内研修学力向上の取り組みとして、今年度の状況からできる範囲での、公開授業、研究授業、研究協議会を目標通り執り行うことができた。授業研修週間についてアンケートを実施した結果、有益であるという意見が、全体を通しては96%であった。公開授業、研究授業を通して学ぶべきことも多くあり、授業力向上への意識を高める良い機会になったと考える。</p>

年 度 末 へ の 改 善 点

**【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】【小中一貫教育の充実】**

来年度より本格実施される新学習指導要領への小学校から中学校へのスムーズな引継ぎが実現できるように、特に各教科間の連携を、今後さらに進めていく必要がある。

**【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】【若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実】**

校内研修の実践報告や、アンケートの集計結果をもとに、次年度以降の研修に繋げていきたい。  
メンター研修を定期的に行い、活発な意見交流をすることで若手教員の指導力向上につなげていく必要がある。